

## 再検証対象建築物の判定方法

既存の超高層建築物等については、設計時に考慮した地震動及び設計用長周期地震動の比較、設計時の安全性の検討におけるクライテリアに対する余裕度の考慮等を行うことによって、「再検証対象建築物」をスクリーニングする方法が考えられる。このスクリーニングを簡便に行う方法の一例として、例えば以下のような方法が考えられる。

1. 別紙 1 に示す方法によって既存の超高層建築物等の建設地点の設計用長周期地震動の擬似速度応答スペクトルを作成する。
2. 構造計算に用いた地震波（複数ある場合にはすべて）の擬似速度応答スペクトルを作成する。
3. 対象建築物の一次固有周期において上記 2 つの擬似速度応答スペクトルを比較し、2. のすべてのスペクトル値よりも 1. のスペクトル値のほうが大きい場合を「再検証対象建築物」とする。